低投資・高収益へ農業法人

「ポモナファーム」設立

多気町 万協製薬と丹生営農組、ベンチャー

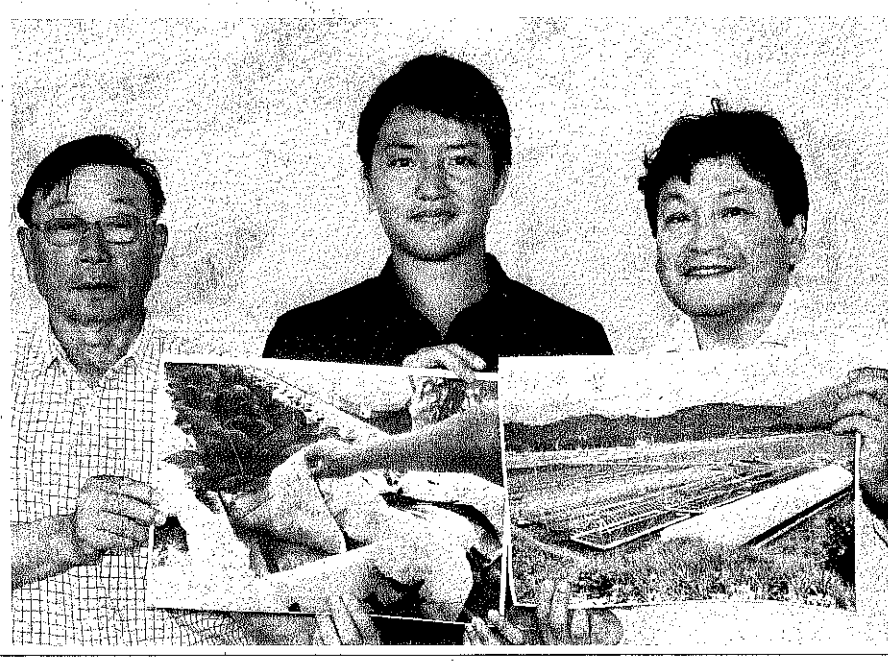
【多気郡】多気町の万協製薬と丹生営農組合、沖縄県那覇市の農業ベンチャー「カルティベラ」は十二日、共同出資して農業法人「ポモナファーム」を設立したと発表した。カルティベラを起業した豊永翔平さん(二八)が代表取締役に就く。同町丹生でトマトやイチゴを年間を通じてハウス栽培する。根域の水分調整ができる特殊なシートや、井戸水を使った冷暖房を活用し、低投資・高収益農業にする。

豊永社長は農業ベンチャーを昨年立ち上げ、複合リゾート施設「アクアイグニス多気(仮称)」の進出を見越して農業経営を模索していた万協製薬(同町仁田)と連携。同営農組合の仲介で農地五千平方㍍を取得し、簡易パイプハウス十五棟を建設中。冬から出荷を始める。社名はローマ神話の果実の女神ポモナにちなむ。

ハウス栽培では高密度ナノファイバーのシートを重ね、毛細根を大量に育て、根域空間の水分値を制御。トマトの糖度を高め、イチゴの香りを強くする。レタスなど葉物野菜は年間十二―十四回の収穫を目指す。水温が一定の井戸水を冷暖房に用いるなどして投資額を通常の半分に抑えた。

松阪市役所で記者会見した豊永代表取締役は「多額の投資が要らない栽培システムや運営ノウハウの開発が目的。横展開で新規就農者を支援したい」と抱負を語った。

万協製薬の松浦信男社長は「働きやすい仕組みをつくりたい。新しい農業の取り組みにご期待いただきたい」と話し、中村豊實組合長は「農業の活性化につながれば」と期待した。



農業法人「ポモナファーム」を設立した(右から)松浦社長、豊永代表取締役、中村組合長＝松阪市役所で

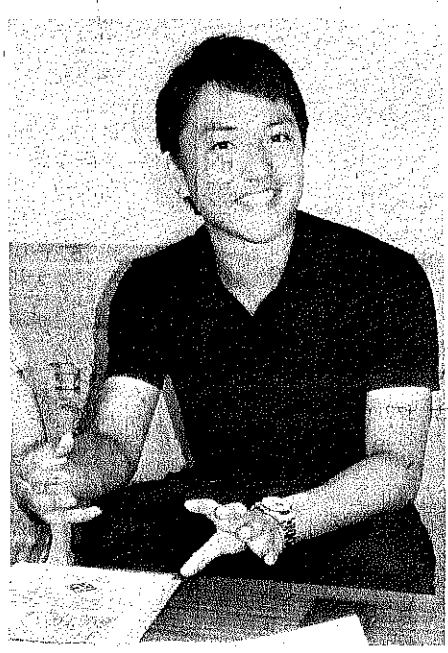
考古学から農業へ

ひと

農業法人「ポモナファーム」代表取締役 豊永 翔平さん(28) 多気町丹生

沖縄県那覇市で農業ベンチャー「カルティベラ」を起業。多気町の万協製薬と丹生営農組合との共同出資で農業法人「ポモナファーム」を立ち上げ、代表取締役に就いた。同町丹生でトマトやイチゴを年間を通じてハウス栽培する。高密度ナノファイバーを使ったシートや井戸水利用の冷暖房などで低投資・高収益農業を目指す。

愛知県あま市出身。早稲田大学考古学研究室でカンボジアの遺跡発掘に携わった。アジア各国の文化遺産周辺で目にする環境破壊や若者の都市流出に心が痛み、自ら地域の基盤産業をつくらねばと思い立ち、環境保全と両立する農業に着目。



卒業後は経営コンサルティングのベンチャーに入り、農業研修を経て昨年、農業ベンチャーを設立。ナノシートで毛細根を大量に育て、根域の水分値を制御する技術開発に取り組む。干ばつ地帯を想定して少量の水で育てる技術だが、水分をコントロールしてトマトの糖分を高めたり、イチゴの香りを強めたりできる。

「多気町は日照条件が良く温暖で農業に適している。同じ北緯三四度三〇分に米国カリフォルニア州ポモナ市があり、ブドウの一大産地」と話す。ポモナはローマ神話の果実の女神。社名は同市と女神にちなむ。

冬から出荷を始める。「ポモナファームで確立した栽培システムや運営ノウハウを横展開して新規就農者を支援したい」と張り切る。(奥)